

NY 感想文(日本語)

研修医 2 年 山本侑樹

ニューヨーク研修に参加して

2024 年 8 月 17 日から 8 月 31 日まで、ニューヨークでの海外研修に参加しました。医学部 5 年生の時から参加を希望していましたが、コロナ禍で中止となり、今回ついに実現しました。金沢市でも外国人患者が増えており、英語での医療面接の重要性を感じていたため、この研修は絶好の機会でした。また、海外留学を目指し、現地で活躍する日本人医師の臨床や研究を学びたいという強い思いもありました。(200 文字)

医学英語の研修(ペース大学)

ニューヨーク到着後、私たちはペース大学で医学英語の集中講座に参加しました。Tony 先生の指導のもと、医師と患者のロールプレイや症例プレゼンテーションを通じてコミュニケーション技術を学びました。特に「ちくちく」や「ズキズキ」といった症状を英語でどう表現するかの難しさが印象に残っています。時差ボケも初めはありましたが、次第に英語での会話に慣れ、この経験が模擬患者との医療面接での自信につながりました。(250 文字)

ブロードウェイでのワークショップ

ニューヨークでは、ブロードウェイで活躍する由水南さんのワークショップに参加しました。初日は緊張と恥ずかしさで凝り固まっていたのですが、彼女の溢れるエネルギーが私たちをリラックスさせてくれました。特に印象的だったのは、彼女が「マイフェアレディ」で日本人初の主演を務めるまで、87 回もオーディションに落ちて諦めず、88 回目に合格したという話です。このワークショップは、挑戦の大切さを改めて認識する素晴らしい体験でした。(250 文字)

医療面接シミュレーショントレーニング

ニューヨーク研修の一環として行われた模擬患者を相手にした医療面接シミュレーショントレーニングは、非常に貴重な経験でした。面接はすべて英語で行われ、日常的な医療面接が言語の壁によってさらに困難になることを実感しました。患者役の俳優たちは、ただ役を演じるだけでなく、私の発音や語彙の使い方についても適切なフィードバックをくれました。このトレーニングを通じて、英語での医療面接に対する自信とスキルを大きく向上させることができました。(250 文字)

Phelps 病院での ACLS トレーニング

Phelps 病院はマンハッタンから電車で約 1 時間の Sleepy Hollow にあり、そこで 2 日間の ACLS トレーニングを受けました。指導は Ann 先生と 2 人の Chris 先生が担当し、私は以前にも ACLS 講習を受けていましたが、英語で学び直すのは新鮮な経験でした。先生方は熱心に指導してくださり、実践的なセッションを通じて心停止患者への CPR や薬剤投与の手順を復習しました。この異なる言語でのトレーニングは、私にとって非常に貴重な体験となりました。(250 文字)

シャドーイング体験

ニューヨーク研修の後半では、現地の日本人医師をシャドーしました。初日は眼科の Asoma 先生、3 日目は産婦人科の Anzai 先生に同行し、言葉や人種の壁を超えて患者に対応する重要性を学びました。多様な背景を持つ人々が集まるニューヨークでは、異なる経済力や価値観に応じた医療提供が求められます。各専門医から、医療知識と共に、異文化間でのコミュニケーションの大切さを学ぶことができ、非常に貴重な経験となりました。(250 文字)

Mt. Sinai Medical School & Hospital & Laboratory での見学

ニューヨーク研修中、Mt. Sinai Medical School を見学しました。医学生の Max と Alex が病院と寮を案内し、現地の医学教育や学生生活について説明を受け、アメリカと日本の医学教育の違いを実感しました。その後、森下先生と川竹先生の研究室を訪問し、脳の臨界期や孤独がマウスに与える影響について学びました。特に脳外科を志す私にとって、脳の発達に関する話は非常に興味深く、大変貴重な経験となりました。(250 文字)

研修の総括

このニューヨーク研修を通じて、私が学んだことは大きく3つあります。

1つ目は、自分の生活環境がいかに狭いかを実感したことです。金沢で生まれ育った私は、その環境を当たり前とと思っていましたが、ニューヨークでは衛生面や生活水準、言語、人種といった多様性に触れ、広い世界を実感しました。

2つ目は、英語の重要性です。どれだけ医学知識があっても日本語しか話せなければ限界があります。英語を習得することで、より多くの人々にその知識を役立てることが不可欠だと痛感しました。

3つ目は、人との縁の重要性です。コロナ禍を経て参加できたこのプログラムで、多くの新しい出会いと協力者に恵まれました。Andrew先生をはじめ、すべての方々に感謝し、このプログラムがさらに発展することを願っています。(300文字)



